

何のために勉強するのだろう・・・？

《はじめに》

中間考査を控える皆さん。勉強をしながら、こんな疑問を持ったことはありませんか？

大人になってから化学の内容を使うことってあるかな？とか、将来は〇〇の仕事に就きたいから英語を使うことないだろうし、深く勉強しなくてもいいや。などこんなことを考えたことが、1度はあるのではないのでしょうか。『先生方の話を聞いて、勉強の大切さは理解しているつもりだけど・・・』『イマイチ、勉強のモチベーションが上がらない・・・』など様々な悩みを持っている人も多いかもしれません。今回は、受験を通して、勉強への新たな視点をくれる本を紹介したいと思います。これから勉強に励む皆さんの何かの役に立つことができれば幸いです。

《本の紹介》 『手紙屋 蛍雪篇～私の受験勉強を変えた十通の手紙～』

この本は、進路や勉強に悩む高校生が「手紙屋」との手紙のやり取りを通じて成長していく物語です。主人公の和花は高校2年生で、進路や勉強に対するモチベーションを失い、悩みを抱えています。そんな彼女が兄の紹介で「手紙屋」という謎の人物と出会い、十通の手紙を通じて勉強の本当の意味や人生の目的を見つけていきます。

物語の中で、手紙屋は和花に対して「勉強は道具である」という考え方教えます。勉強は単なる知識の蓄積ではなく、人生を豊かにするための手段であり、正しい使い方をすることで自分の未来を切り開く力を持つと説きます。また、手紙を通じて和花は「学校で習うことだけが勉強ではない」「心の成長なくして結果を手にするとはできない」など、勉強に対する新たな視点を得ます。

和花は手紙屋とのやり取りを通じて、自分の内面と向き合い、勉強の意義を再認識します。特に「困難を可能にするのは意志の力」「成功するために必要なのは行動だ」といったメッセージが彼女の心に響き、勉強に対するモチベーションを高めるきっかけとなります。

物語のクライマックスでは、和香が手紙や殻の教えを実践し、大学受験に向けて前向きに取り組む姿が描かれます。彼女の成長は、読者にとっても勉強や人生について考え直すきっかけを与えるものです。



《おわりに》

知識への投資は、常に最高の利息が付いてくる

ベンジャミン・フランクリン

さあ、『今日』から勉強を頑張ってみましょうか！！

頑張る皆さんを応援します。